

行動と結果の2枚組。この後、子どもたちに「適切な行動や代替案」を提示することが不可欠である。

※印に、そのためのヒントも提示してあるが、それぞれの子の認知のレベルに合わせて、具体的な場面でそれらを教えてあげることが重要である。それぞれの場で工夫をして、子どもたちに適切な行動や代替案を示すようにする。

## 2 注意欠陥多動性障害児の場合

### 指導と支援

- ① 保育者に近い所に、模範的な園児のそばに座らせるのがよいとされている。
- ② ADHDの子どもが複数いるときは、隣り合わせにはしない。
- ③ 窓側や通路からはできるだけ遠くに座るようにする。
- ④ ADHDの子どもは音楽を聞きながら作業をさせると、集中力が増すことがわかっている。保育中にバックグラウンド音楽をかける。あるいは、ホワイトノイズ（同じ強さのすべての周波数の音が混じったノイズ。「ザー」「サー」と聞こえる。）を流す。他の子どもにも同様の効果が期待できる。
- ⑤ 保育室内の基本的なルールは目のつくところに張り出し、守らないときは、参照できるようにしておく。
- ⑥ 教材は、できるだけ視聴覚両方から刺激が入るものを準備する。
- ⑦ 課題は、短時間でできるように区切って出す。
- ⑧ 課題をやらせるときは、時間経過をブザーなどで時々知らせ、自分の進行状態を自分でモニターできるようにする。
- ⑨ 保育室はあまり教材をはりださない。
- ⑩ 話は短いセッションにわけると。
- ⑪ 本人の目を見て話しかける。

## 3 学習障害児の場合

子どもの方に理解が難しい様子が見て取れても、理解してもらいたい内容の提示の仕方を変えることで、理解が促せることも多い。

### (1) LDの子どものタイプ

日頃の子どもの様子をよく観察し、LDの子どもの中には、①と②のどのようなタイプかを把握する。

#### ① 見て理解することが得意な子ども（視覚的に情報を処理する）

言葉による説明だけではよく理解できなかったとしても、その内容を絵や実物で示してもらったり、実演してもらったりするとすぐに理解できる場合がある。

例えば、「今日は〇〇をします」と伝えた方が、子ども自身も全体的な把握が促され、何をすべきか把握しやすくなる。

② 聞いて理解することが得意な子ども（聴覚的に情報を処理する）

「絵よりも言葉での説明」「言語的・逐次的な説明」が有効である。

例えば、「一つ目は〇〇をします。二つ目は△△をします」というような継次的な説明が入りやすかったりする。

(2) **スモールステップで対応する。**

クリアしてほしい課題をその子に応じた適切なステップに細分化し、着実にクリアできるように導くことである。

例えば、一つ一つの段差が大きいとなかなか上れないが、段差が小さければ数は多くなっても着実に上りきれるといったイメージである。

(3) **フィードバックをする。**

フィードバックというのは、子どもが行ったことに対して、何かしらの評価を返すことである。例えば「今の発言のこういうところがよかったね」など、具体的にどういうところがよかったのかを即座に返す。

(4) **繰り返し行う**

子どもが知識や技術を獲得し、その知識が安定するまで、繰り返し行うことが重要である。



## 第V部 心理アセスメント(見立て)について

特別な支援を必要とする広汎性発達障害・注意欠陥多動障害・学習障害の子どもたちの理解と教育支援にあたっては、心理アセスメントから支援方法を考え、その子に応じた必要な支援法を調整していくことが求められる。そのため知的発達に関する心理アセスメントは欠くことのできないものである。

### 1 心理アセスメント(見立て)の目的

- (1) 広汎性発達障害・注意欠陥多動性障害・学習障害などの判断をする。
- (2) 子どもへの特別な教育的支援の計画や個別の指導計画を立てる。

### 2 心理アセスメント(見立て)をする場合、しない場合、できない場合

する場合	しない場合	できない場合
発達の遅れや偏りが背景にあるLD、知的障害の疑いなど。	発達ではなく、明らかに環境、あるいは外的な心理要因が背景にある。	保護者の同意がない。 本人が強い抵抗力をもっている。

(出所) 上野一彦 海津亜希子 服部美佳子『軽度発達障害の心理アセスメント』日本文化科学社 2005 p.3

### 3 心理アセスメント(見立て)のプロセス

- ① 照 会 (保護者から担任)  
↓
- ② アセスメント設計  
(特別支援教育コーディネーター、特別支援教育士、臨床心理士、学校心理士など)  
↓
- ③ 保護者への説明 (インフォームド・コンセント)  
↓
- ④ アセスメント実施  
↓
- ⑤ 結果 (分析・解釈)  
↓
- ⑥ 保護者への結果説明 (今後の方針決定)  
↓
- ⑦ 特別支援実施  
↓
- ⑧ 再評価 修正  
↓
- ⑨ ②のアセスメント設計へ、再検討する

(出所) 上野一彦 海津亜希子 服部美佳子『軽度発達障害の心理アセスメント』日本文化科学社 2005 p.15

#### 4 実態把握のための主な検査

検査名	検査の特徴	備 考
PRS LD児・ADHD児 のためのスクリー ニング・テスト	LD児・ADHD児診断のためのスクリーニング。5つの診断項目から構成され、「言語LD」、「非言語LD」、「総合診断」ができ、子どもの特性を理解できる。	検査時間：3分 適応年齢：5～15歳 検査者：家族以外の対象者をよく知っている人
LDI LD判断のための 調査票	LD判断のための調査票。6つの基礎的学力と行動。社会性の計8領域で構成され、各領域は12項目からなり、4段階評定を用いる。LD判断のための一つの資料になる。	検査時間：20～30分 適応年齢：小1～6年生 用 具：検査用紙
WISC-III 知能検査	言語性検査と動作性検査から構成され、両者の10の差や下位検査の評価点のプロフィールなどから、その個人の知能の構造など明らかにできるとともに、言語理解、知覚統合、注意記憶、情報速度の各郡指数から、下位検査の落ち込み等の背景を探ることができる。	検査時間：60分 適応年齢：2～ 12歳11カ月 用 具：検査用具 検査用紙 ストップウォッチ
K-ABC 心理・教育アセス メントバッテリー	認知処理様式を、情報を一つずつ時間的に順序によって処理する「継次処理様式」と、複数の情報をその関連性に注目して全体的に処理する「同時処理様式」に分け、両者にアンバランスはないか、する場合にはどちらが優位かを把握する。教育的支援の方向性も把握できる。	検査時間：60分 適応年齢：2～ 12歳11カ月 用 具：検査用具 検査用紙 ストップウォッチ
ITPA 言語学習能力診 断検査	下位検査は回路・過程・水準という3つの次元から構成され、個人内での様々な言語処理能力に関する差異を明らかにできる。子どもの情報処理特性という面からの理解に役立つことから、LD児の診断や支援プログラム作成時の優先内容や順序性などを明らかにできる。	検査時間：60分 適応年齢：3～10歳未満 (MA) 用 具：検査用具 検査用紙 カセットプレイヤー ストップウォッチ

(出所) 鹿児島県教育委員会「実態把握のための主な検査」『小・中学校における校内支援体制の確立をめざして』p.69 2006

## 【引用・参考文献】

- 無藤隆 神長美津子 柘植雅義 河村久 編『幼児期における LD・ADHD・高機能自閉症等の指導「気になる子」の保育と就学支援』東洋館出版社 2005 p. 30-78
- 市川宏伸（監）『子どもの心の病気がわかる本』講談社 2004 p. 55
- 兵庫県健康生活部健康局健康増進課『乳幼児集団健康診査マニュアル（別冊）～発達障害児を早期発見・早期支援するために～』2006 p. 4-3
- 小野次郎 「障害児共生保育 発達障害の理解と支援（1）～（3）」『チャイルドネット osaka 第 71-73 号』大阪保育子育て人権情報研究センター 2006-2007 p. 13-14
- 上野一彦 海津亜希子 服部美佳子『軽度発達障害の心理アセスメント』日本文化科学社 2005 p. 15
- 兵庫県教育委員会障害児教室「個別の就学サポート計画の活用の手引き（試案）」『平成 18 年度 就学サポート連携推進運営会議』2007 年 3 月 p. 4
- 鹿児島教育委員会「実態把握のための主な検査」『小・中学校における校内支援体制の確立をめざして』2006 p. 69
- 保育士問題検討委員会「保育士試験の要点と問題」大阪教育図書株式会社 2002 p. 450
- 小川圭子「障害のある子どもと家族支援」成清美治 高橋紀代香『家族援助』学文社 2007 p. 65-73
- 小野次郎 榊原洋一（編）『教育現場における障害理解マニュアル』朱鷺書房 2002
- 吉田友子『「その子らしさ」を生かす子育て—高機能自閉症・アスペルガー症候群—』中央法規出版 2003
- 『幼年版 連続絵カード場面の認知（危険回避と約束事）』エスコアール



(2) 就学サポートシート(引継ぎ用)

氏名	
所属機関	



所属機関	
記入日	
相談メンバー	

項目	内容
<b>1 これまでの取り組み</b>	
(1)所属機関	(例) どんな学習をして何が出来るようになりましたか。 どのような学習の方法がよかったですか。 学んだことで家庭生活や地域生活で活用されていることは何ですか。
(2)家庭生活	(例) 家庭ではどんなふうに過ごしていますか。 何か困っていることはありますか。 学んだことで家庭生活や地域生活で活用されていることは何ですか。
(3)余暇・地域生活	(例) 休日はどんなふうに過ごしていますか。 何か困っていることはありますか。 地域の人にどんな協力をしてもらっていますか。
(4)健康・安全・相談	(例) 健康や食生活について配慮してきたことは何ですか。 医療面で安心できるようになったこと、心配なことは何ですか。 何か困ったときの相談相手は誰ですか。

<b>2 これまでの取り組みの評価</b>	
*子どもに応じた項目を記入する	(例) 今までで一番成果があったことは何ですか。 これからも継続していきたいことは何ですか。 次のステップは何ですか。 「こうしてほしい」と思うことは何ですか。

<b>3 これからの計画</b>	
(1)これからの方針	(例) 何を一番大切にしていきたいですか。 どんな人とのネットワークを広げたいですか。
(2)所属機関	}
(3)家庭生活	
(4)余暇・地域生活・卒業後の生活	
(5)健康・安全・相談	